



# JRCP新幹線乗務員が大量に退職！

## 「乗務員の要員削減施策」の失敗！ 労働者へのしわ寄せに渦巻く不満と悲鳴！

東海道新幹線の車内販売や乗客の案内業務等を担当する株式会社ジェイアール東海パッセンジャーズ(JRCP)の列車業務の乗務員が6月になると70名がまとまって退職するとのことでした。

理由は自己都合とのことですが、その内容は「仕事がキツイ」「手当が少ない」ことが主な理由です。確かに3月のダイヤ改正からのぞみ号の基本乗組数が4名から3名へと減りました。減員となる前から行なっていた業務は見直されることがなく、一人分の仕事のしかかって来るので、誰がやっても仕事はキツイはずです。

最近の東海道新幹線の利用状況は、以前のコロナ禍の状況からは増えつつあり、乗務員が減った時にはさほど負担を感じなかった問題が、乗客が増えつつある中でジワジワしわ寄せが負担になってきてます。のぞみ号の車内業務はとて3人でこなせる状況ではありません。

乗組数が基本4名の時に、乗務員の操配が出来ない状況が発生するときは仕方なく3名で乗務することもありました。そのような場合には一人500円の手当(減員手当)が支払われていました。しかし、現在3名が基本となってからは手当はありません。こんな人をバカにしたような施策ってありますか！

### 新幹線車掌の減員(3名→2名)が負担と不満の呼び水に！

2018年3月17日から東海道新幹線の車掌の乗組数が3名から2名へと減りました。その後、奇しくも2015年6月30日「のぞみ225号の新幹線列車火災」、2016年5月16日「のぞみ38号傷害事件」、2018年6月9日「のぞみ265号車内殺傷事件」などがたて続けに発生しました。乗客で亡くなった方もおられます。JR東海の車掌の乗組数減員をJRCPの乗務員(パーサー)に業務を移管し、新幹線車掌の乗務員の要員削減を実施しました。その頃から凶悪な事件や業務負担がパーサーに対して不安や不満の元となっていました。

**黙っていたらさらにしわ寄せが来ます！労働者はロボットではない！  
労働者へのしわ寄せと効率化を許さず、声を出して改善を求めよう！**